

京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画
に係る令和6年度実施計画

目 次

| | |
|--|----|
| ■ 基本方針①「安心・安全な運行と持続可能性の確保」に関する施策 | |
| ①-a. 利便性、安全性、機能性の向上に資する計画的な設備投資 | |
| <計画的な線路、電路、信号設備や車両等の整備> | 1 |
| 設備投資計画による鉄道施設の整備 | |
| 維持修繕計画による鉄道施設の維持管理 | |
| 踏切事故防止に向けた地域住民との協議 | |
| ①-b. 計画的な設備投資、適切な維持管理を進めるための沿線自治体の支援 | |
| <新たな鉄道事業再構築実施計画の策定及び実施> | 3 |
| 新たな鉄道事業再構築実施計画の策定 | |
| ①-c. 沿線自治体の負担軽減のための、国の支援の積極的な導入 | |
| <国の支援等の積極的な導入> | 4 |
| 地域公共交通再構築事業（社会資本整備総合交付金）の活用 | |
| ①-d. 公共交通事業者の人材確保 | |
| <公共交通事業者の人材不足の解消> | 5 |
| 公共交通事業者の人材確保等に向けた取組への支援【京都府】 | |
| 公共交通事業者の人材確保等に向けた取組への支援【協議会（北部連携）】 | |
| 公共交通事業者の人材確保等に向けた取組への支援【自治体】 | |
| ■ 基本方針②「快適性・利便性の向上」に関する施策 | |
| ②-a. ぐ`イの工夫やサービス改善などによる鉄道の利便性向上 | |
| <ぐ`イの工夫などによる鉄道の利便性向上> | 7 |
| ぐ`イの工夫による接続改善 | |
| 丹鉄増便、増結の実証実験 | |
| <駅のバリアフリー化・ユニバーサル化> | 8 |
| 駅のバリアフリー化・ユニバーサル化の検討 | |
| <新駅の検討> | 9 |
| 新駅の検討 | |
| ②-b. 鉄道とアクセス交通との連携による利便性の高い公共交通ネットワークの構築 | |
| <利便性の高い公共交通ネットワークの構築> | 10 |
| 地域モビリティサービス実証支援事業 | |
| 地域モビリティサービスの継続・拡充 | |
| e-bike やシェアサイクルなど新たなモビリティの活用検討 | |
| パーク&ライドの促進 | |
| 公共交通機関の運行状況に係る情報提供の即時性の向上 | |
| サイクルトレイン拡充の実証実験 | |
| ②-c. 駅及び駅周辺の快適性・利便性の向上 | |
| <駅の待合環境、駅施設の改善> | 15 |
| 駅周辺の待合環境の整備に関する取組の支援 | |

| | |
|------------------------------------|----|
| ②-d. MaaS などシームレスな公共交通ネットワークの構築 | |
| <シームレスな交通ネットワークの構築> | 16 |
| 地域公共交通の GTFS 化の推進 | |
| 地域公共交通に関するポータルサイト、アプリの作成 | |
| <JR 西日本との連携強化> | 17 |
| JR 西日本が提供するオンライン予約サービスの丹鉄への拡大検討 | |
| 京都丹後鉄道への ICOCA の導入検討 | |
| <利便性向上のためのマーケティングの実施> | 18 |
| マーケティングの実施及び活用検討 | |
| | |
| ■ 基本方針③「沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携」に関する施策 | |
| ③-a. 沿線自治体の立地適正化計画や駅周辺整備計画等の着実な推進 | |
| <都市計画マスタープランや立地適正化計画の着実な推進> | 19 |
| 福知山市都市計画マスタープラン | |
| 福知山市立地適正化計画 | |
| 舞鶴市都市計画マスタープラン | |
| 舞鶴市立地適正化計画 | |
| 宮津市都市計画マスタープラン | |
| 京丹後市都市計画マスタープラン | |
| 豊岡市都市計画マスタープラン | |
| ③-b. 駅周辺のにぎわいづくりの推進 | |
| <駅周辺等への都市機能の再配置> | 22 |
| 福知山駅 正面エリアの再開発 | |
| 西舞鶴駅 西口駅前広場整備 | |
| 西舞鶴駅 中央図書館整備 | |
| 駅周辺等のにぎわいづくりの検討 | |
| | |
| ③-c. 「海の京都」づくりなど地域の観光戦略との連携 | |
| <観光地の魅力向上> | 25 |
| 観光地域づくり | |
| <鉄道駅から目的地への交通の整備> | 26 |
| 観光案内機能の強化 | |
| <JR 西日本と連携した広域的な新たな観光客の開拓> | 27 |
| JR 観光列車「はなあかり」の運行とあわせなおもてなし | |
| サンガ観戦者への利用促進 | |
| JR 観光列車「はなあかり」の成果を踏まえた継続運行の協議 | |
| JR 西日本と連携した企画旅行 | |
| JR 西日本と連携した広域的な集客取組 | |

| | |
|--|----|
| ③-d. インバウンド対応の強化 | |
| <外国人旅行者向けプロモーションの強化> | 29 |
| インバウンドを対象とした丹鉄及び沿線地域のプロモーションの実施 | |
| JR西日本と連携したJRウエストレールパスの共同プロモーション | |
| <駅施設や車両等のインバウンド対応の推進> | 30 |
| オーバーツーリズム未然防止対策の実施 | |
| <クルーズ船との連携> | 31 |
| クルーズ船乗客向けの案内・対応の強化 | |
| クルーズ船乗客向けの新たなインバウンドコンテンツの検討 | |
| クルーズ船乗客向けの団体臨時列車運行や企画乗車券の販売 | |
| ■ 基本方針④「沿線住民など多様な主体との連携」に関する施策 | |
| ④-a. ターゲットを明確にした利用促進の取組の実施 | |
| <通学利用者等をターゲットとした利用促進> | 33 |
| 中学校での交通教室の開催 | |
| 丹鉄団体乗車券学生割引の沿線教育機関へのPR | |
| 中・高校生への乗車マナーの啓発 | |
| 中学生向け夏休み優待パスの発行 | |
| 高校入学説明会・オープンスクール等とタイmingを合わせたモバイル・マネジメント | |
| <事業所・行政職員をターゲットとした利用促進> | 35 |
| 行政職員の公共交通利用の推進 | |
| ダイヤに合わせた会議時刻設定、時差出勤の呼びかけを実施 | |
| <運転免許証返納者など高齢者をターゲットとした利用促進> | 36 |
| 高齢者を対象とした公共交通利用の支援制度の継続及び拡充検討 | |
| 高齢者を対象としたモバイル・マネジメントの継続及び拡充検討 | |
| 高齢者を対象とした定期券の発行 | |
| <子どもをターゲットとした利用促進> | 38 |
| 幼稚園児・小学生対象の交通教室の開催 | |
| たんてつこども新聞の継続・拡充検討 | |
| 沿線自治体・交通事業者によるモバイル・マネジメントの継続・拡充 | |
| キッズトレインの運行 | |
| 手作り切符による子ども料金の無料化 | |
| ④-b. 地域と連携した地域主体の取組の推進 | |
| <地域住民の利用促進> | 40 |
| 丹鉄月1回乗車運動の展開 | |
| <地域住民による集客イベント等の実施> | 41 |
| 宮津線100周年イベントの実施 | |
| ④-c. 関係人口の拡大 | |
| <丹鉄ファンクラブなど関係人口拡大の取組> | 42 |
| 丹鉄ファンクラブの創設 | |
| クラウド・ファウンディングの活用検討 | |

■基本方針①「安心・安全な運行と持続可能性の確保」に関する施策

| 基本方針① 安心・安全な運行と持続可能性の確保 | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|--|--------------|-----|----|----|----|----------|-----|------|
| 施策 | ①-a. 利便性、安全性、機能性の向上に資する計画的な設備投資 (計画的な線路、電路、信号設備や車両等の整備) | | | | | | | 関連する基本方針 | | |
| | | | | | | | | ② | ③ | |
| 目的 | 計画的な鉄道施設の整備、維持修繕により安心・安全な運行を確保する。 | | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■設備投資計画による鉄道施設の整備 (概要)</p> <p>設備投資計画による鉄道施設の計画的な整備を実施。令和6年度までは現行の設備投資計画によるものとし、令和7年度以降は新たに作成した設備投資計画により事業を行う。</p> <p><整備項目等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・線路、電路、車両更新等 財源 地域公共交通再構築事業等 (社会資本整備総合交付金等) ・車両保存 財源 鉄道軌道安全輸送設備等整備事業 <p><スケジュール></p> <p>～R6年度：現行の設備投資計画による事業の実施 新たな鉄道事業再構築実施計画 (設備投資計画) の策定</p> <p>R7年度～：新たな設備投資計画による事業の実施</p> | | | | | | | | | |
| | <p>■維持修繕計画による鉄道施設の維持管理 (概要)</p> <p>維持修繕計画による老朽化対策、長寿命化も含めた鉄道施設の計画的な維持管理を実施。令和6年度までは現行の維持修繕計画によるものとし、令和7年度以降は新たに作成した維持修繕計画により事業を行う。</p> <p><整備項目等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・線路、電路、車両等 ・財源 沿線自治体からの補助金 <p><スケジュール></p> <p>～R6年度：現行の維持修繕計画による事業の実施 新たな鉄道事業再構築実施計画 (維持修繕計画) の策定</p> <p>R7年度～：新たな維持修繕計画による事業の実施</p> | | | | | | | | | |
| 実施主体 | KTR、WT、沿線自治体 | | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------------|---|---------------------|-----|----|----|----|----|-----|
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■踏切事故防止に向けた地域住民との協議 (概要) 遮断桿のない危険な踏切である第 3 種 (13 箇所) 及び第 4 種踏切 (18 箇所) の安全確保に向けた取り組みを一層進めるため、地元住民や道路管理者、公安委員会等と協議を進め、整備計画の策定、対象踏切の廃止や 1 種化改良及び暫定対策実施を進める。 <財源等> ①財 源：社会資本整備総合交付金等を活用 ②スケジュール：5 年度より 3 種・4 種踏切がある自治体と踏切協議を実施、地元住民協議状況を共有するとともに、協議が整った箇所より順次安全対策を実施する。 | | | | | | | |
| | 実施主体 KTR、WT、沿線自治体 | 実施時期 (年度) | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |

地元協議・整備計画の策定

協議状況を踏まえて対象踏切の工事を実施

| 基本方針① 安心・安全な運行と持続可能性の確保 | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|--------------|--|-------------|----|-------------|----|----------|-----|
| 施策 | ①-b. 計画的な設備投資、適切な維持管理を進めるための沿線自治体の支援 ＜新たな鉄道事業再構築実施計画の策定及び実施＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ② ③ | |
| 目的 | 新たな鉄道事業再構築実施計画を策定し、鉄道施設の計画的な設備投資、適切な維持管理を行う。 | | | | | | | | |
| A. 令和 6 年度実施事業 | ■新たな鉄道事業再構築実施計画の策定 (概要) 現在実施中の鉄道事業再構築事業は令和 6 年度末で期間満了となるため、令和 7 年度以降の新たな鉄道事業再構築実施計画を策定し、沿線自治体の支援の継続に取り組む。 ＜スケジュール＞ R6. 4～6 設備投資計画等の精査 R6. 7～9 国土交通省との調整 R6. 10 鉄道事業再構築実施計画の認定申請 R6. 12 再構築実施計画の認定 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| KTR、WT、沿線自治体 | | | | 再構築実施計画 (旧) | | 再構築実施計画 (新) | | | |


| 基本方針① 安心・安全な運行と持続可能性の確保 | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|--|--------------|---------------------|----|----|----|----------|-----|------|
| 施策 | ①-c. 沿線自治体の負担軽減のための、国の支援の積極的な導入 ＜国の支援等の積極的な導入＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | | |
| | | | | | | | | ② ③ | | |
| 目的 | 国の支援の積極的な導入により、沿線自治体の負担軽減を図ることで持続可能な鉄道事業の運営を図る。 | | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■地域公共交通再構築事業（社会資本整備総合交付金）の活用（概要）</p> <p>鉄道軌道安全輸送設備等整備事業と比較して補助要件が有利な社会資本整備総合交付金を活用し、安全運行のための積極的な設備投資を図るとともに、沿線自治体の負担を軽減する。</p> <p>＜補助概要＞</p> <p>国 1/2 補助（地方交付税措置 45%） 交付金事業者 地方公共団体 交付対象事業 地域公共交通特定事業の実施計画の認定を受けた、持続可能性、利便性、効率性の向上に資する施設整備</p> <p>＜スケジュール＞（※社総交の活用に向けて必要な計画の策定）</p> <p><u>現計画期間</u> R6.1 地域公共交通計画策定 再構築実施計画の変更認定申請 整備計画（～R6年度）の提出 R6.2 再構築実施計画の変更認定</p> <p><u>次期計画期間</u> R6.10 再構築実施計画の認定申請 （予定）R6.12 再構築実施計画の認定 R7.1 整備計画（R7～R11年度）の提出</p> | | | | | | | | | |
| 実施主体 | KTR、WT、沿線自治体 | | 実施時期 （年度） | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | | | 調整 → 社会資本整備総合交付金の活用 | | | | | | |


| 基本方針① 安心・安全な運行と持続可能性の確保 | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ①-d. 公共交通事業者の人材確保 ＜公共交通事業者の人材不足の解消＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ② | |
| 目的 | 公共交通事業者の人材確保により、持続可能な輸送サービスの実現を図る。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■公共交通事業者の人材確保等に向けた取組への支援 (概要)</p> <p>地域に不可欠な公共交通を維持・確保するため、人材不足の影響を受けている地域公共交通事業者に対して、総合的な支援を実施する。</p> <p>○人材確保対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通事業者が人材確保のために行う取組への支援 例：運転士の育成、PR・広報、アテンダントの採用活動など <p>○省エネ・生産性向上推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通事業者が行う省エネ設備への転換や生産性向上に資するデジタル機器導入等への支援 例：低燃費タイヤへの交換、省エネ車両への更新、照明のLED化、バス等運行管理システムの更新、キャッシュレス化、予約システム整備など <p>○労働環境整備、改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保のための労働環境改善等に資する整備等への支援 例：宮津駅WT事務所のトイレ等の改修、仮眠室整備、現場待機所のエアコン整備など | | | | | | | | |
| | 実施主体 京都府 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■公共交通事業者の人材確保等に向けた取組への支援 (概要)</p> <p>地域に不可欠な公共交通を維持・確保するため、人材不足の影響を受けている地域公共交通事業者に対して支援を実施する。</p> <p>○公共交通人材確保事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通事業者が人材確保のために行う取組への支援 例：バス運転手の体験会実施、合同説明会出店費用支援、セミナーの開催 など | | | | | | | | |
| | 実施主体 協議会（北部連携） | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |

| | | | | | | | | |
|--------------------|--|---------------------|-----|----|----|----|----|-----|
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■公共交通事業者の人材確保等に向けた取組への支援 (概要) 地域に不可欠な公共交通を維持・確保するため、人材不足の影響を受けている地域公共交通事業者に対して支援を実施する。 ○公共交通人材確保事業 ・地域公共交通事業者が人材確保のために行う取組への支援 例：交通事業者が行う取組について広報紙等での積極的な PR、就職フェアなどの情報提供 | | | | | | | |
| | 実施主体 沿線自治体 | 実施時期 (年度) | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| | | 協議調整 | | | | | | 継続 |

■基本方針②「快適性・利便性の向上」に関する施策

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | | |
|--------------------|--|------|-----|----|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ②-a. ダイヤの工夫やサービス改善などによる鉄道の利便性向上 ＜ダイヤの工夫などによる鉄道の利便性向上＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ① | |
| 目的 | ダイヤの工夫や接続の改善など乗継利便性の向上による公共交通利用者の増加を図る。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■ダイヤの工夫による接続改善 (概要)</p> <p>京都丹後鉄道沿線地域では公共交通の乗継における待ち時間が長いことが、利用につながらない理由の一つと考えられる。</p> <p>乗継拠点となる鉄道駅やバス停において、京都丹後鉄道とJR、鉄道とバスのダイヤ調整を随時実施し、鉄道駅やバス停での待ち時間を減らすことにより、地域住民や来訪者の利便性向上及び公共交通の利用促進を目指す。</p> <p>○実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅：計画区域内の鉄道駅 ・バス停：計画区域内のバス停 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| WTを中心に交通事業者と連携して実施 | | (年度) | | | | | | | |
| C. 構想段階事業 | <p>■丹鉄増便、増結の実証実験 (概要)</p> <p>沿線地域住民や利用者を対象としたアンケート結果では、朝夕の通勤通学時間帯における運行本数増加を求める意見が多く寄せられた。また、通勤通学時間帯だけでなく観光客の多い時間帯においても、着席乗車を求める意見が多く寄せられた。</p> <p>そこで、朝夕の地域の実情に応じた旅客輸送サービスの提供を行うための増便及び増結(増便による実質的な着席機会の増加も含む)の実証事業について検討する。</p> <p>○地域公共交通再構築調査事業 (補助対象事業)</p> <p>鉄道輸送の高度化に向けた検証：増便、接続改善、ダイヤ変更、増結など (補助率) ※実証実験 補助率 1/2 上限額 50 百万円</p> | | | | | | | | |

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------|--|----|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ②-a. ダイヤの工夫やサービス改善などによる鉄道の利便性向上 ＜駅のバリアフリー化・ユニバーサル化＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ① | |
| 目的 | 駅のバリアフリー化・ユニバーサル化の検討を進め、誰もが利用しやすい環境づくりを目指す。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■駅のバリアフリー化・ユニバーサル化の検討 (概要) 駅のバリアフリー化・ユニバーサル化に向けて、現状及び改善点を確認し、整備の検討を進める。 (スケジュール) R6年度:現状及び改善点を駅ごとにまとめ、整備必要箇所を確認 R7年度以降:過年度の実施状況を踏まえて調整 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| KTR、WT、沿線自治体 | | |  過年度の実施状況を踏まえて調整 | | | | | | |

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | |
|------------------|---|---|-----|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ②-a. ダイヤの工夫やサービス改善などによる鉄道の利便性向上 ＜新駅の検討＞ | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | ① | |
| 目的 | 主要駅へのアクセス性の向上や利便性の向上により自動車から公共交通への転換につなげるため、新駅の設置に向けた検討を進める。 | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■新駅の検討 (概要) 丹鉄沿線地域において、高速道路の事業化や新たな複合施設の建設など周辺環境の変化を踏まえ、新駅設置について鉄道事業者や沿線自治体、地域住民とともに検討を進める。 〈スケジュール〉 令和6年度：沿線住民の鉄道利用状況及び新駅設置のニーズを調査 令和7年度以降：過年度の実施状況を踏まえて調整 | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| KTR、WT、沿線自治体 | |  過年度の実施状況を踏まえて調整 | | | | | | |

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | | |
|------------------|---|-----|--------------|-----|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ②-b. 鉄道とアクセス交通との連携による利便性の高い公共交通ネットワークの構築 ＜利便性の高い公共交通ネットワークの構築＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ① ③ | |
| 目的 | バス路線の廃止や減便が生じている地域の持続可能な公共交通を確保。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■地域モビリティサービス実証支援事業 (概要)</p> <p>物価高騰や運転士不足を原因としたバス路線の廃止や減便等が相次ぐ中、地域の実情に応じた旅客輸送サービスの提供を行うための実証事業を支援する。</p> <p>① 輸送資源の総動員 利用者を限定した運送サービスを提供している運送事業者等が、一般利用者へサービス提供を拡大する実証事業を支援 例) 企業送迎バスの一般旅客輸送など</p> <p>② 地域モビリティの高度化推進 自家用有償旅客運送の安全性・持続性向上や基盤強化に資するタクシー事業者との連携による実証事業を支援 例) 配車アプリの導入、丹鉄駅の自家用有償旅客運送の拠点化、タクシー会社と自家用有償旅客運送との連携など</p> <p>③ 自動運転の実装支援 府内を運行する乗合バス事業者を含む協議会が行う、自動運転の実装に向けた取組を支援 例) ワークショップ開催、地図データ収集、走行ルート策定、自動運転実証運行（別途国費活用）</p> <p>※実施箇所は募集の予定</p> | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 京都府 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| | | | | | | | | | |

**A. 令和 6 年
度実施事業**

■地域モビリティサービスの継続・拡充

(概要)

公共交通の空白地や不便地域において、自家用車を持っていない方の移動手段を確保し、安心して買い物・通院や、週末のサロン活動へ行くことができるように、沿線自治体で実施している交通空白地有償運送などの取組を支援・継続・拡充する。

<拡充の検討>

<宮津市>

- ・交通空白地有償運送の実施地区外住民、来訪者の輸送に向けた体制の検討を進める。
- ・交通空白地有償運送の運行管理業務のデジタル化等持続的な体制づくりを進める。
- ・令和 5 年度に府中地区で実証実験を行った、グリーンスローモビリティの実装に向けた検討を進める。

<京丹後市>

- ・市内を運行する乗合バス事業者を含む協議会が行う自動運転の実装に向けた取組を支援する。(共創モデル実証運行事業活用予定)

<与謝野町>

- ・令和 5 年度中で「予約型乗合交通」の実証実験を行っており、令和 6 年度以降の実装に向けて調整する。

<伊根町>

- ・町内を運行する予約型乗合交通「いねタク」の車両数を拡大する。

<豊岡市>

- ・但馬地域における地域公共交通のあり方を検討する会議体を設立し、豊岡市内を運行する地域モビリティの再編や問題点の解決を図る。

※その他市町は現行の取組を継続

| | | | | | | | | |
|---------------|--------------|-------------------|----|----|----|----|-----|------|
| 実施主体 沿線自治体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | 地域モビリティサービスの継続・拡充 | | | | | | |

A. 令和 6 年
度実施事業

■e-bike やシェアサイクルなど新たなモビリティの活用検討

(概要)

沿線市町や事業者と連携し、カーシェアリング、電動キックボード、e-bike、シェアサイクルなどの新たなモビリティの活用について、予約システムの構築も含めて検討を進める。

<整備状況>

| 沿線市町 | 実施場所 | 整備内容 |
|------|-------------------------------------|---------------------|
| 福知山市 | 福知山駅 | レンタサイクル (電動アシスト有) |
| | 大江駅 | レンタサイクル |
| 舞鶴市 | 西舞鶴駅 | レンタサイクル |
| | 東舞鶴駅 | レンタサイクル |
| | 舞鶴赤れんがパーク | レンタサイクル |
| 宮津市 | 丹後由良駅 | レンタサイクル |
| | 宮津駅 | レンタサイクル、e-bike レンタル |
| | 天橋立駅 | レンタサイクル、e-bike レンタル |
| 京丹後市 | 網野駅 | e-bike レンタル |
| | 久美浜駅 | e-bike レンタル |
| | 森林公園スイス村 宇川温泉よし野の里 碓高原ステーキハウス | e-bike レンタル |
| | | |
| 伊根町 | 伊根町日出 | e-bike レンタル |
| | 伊根町観光協会 | レンタサイクル |
| 与謝野町 | 与謝野駅 | e-bike レンタル |
| | 与謝野町観光協会 | e-bike レンタル |
| 豊岡市 | 豊岡駅 | レンタサイクル |
| | 豊岡駅 | カーシェアリング |
| | 豊岡市役所 | |

※追加設置箇所や予約システム構築の検討を進める。

| | | | | | | | | |
|----------------------------------|--------------|----------|---------------|----|----|----|-----|------|
| 実施主体 WT を中心に沿線自治体、観光団体と連携して実施 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | 協議 検討 | 新たなモビリティの活用検討 | | | | | 継続 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|-----|----|-----|------|----|-----|------|---------------|--|-------|--|--|----|----|
| <p>A. 令和 6 年 度実施事業</p> | <p>■パーク＆ライドの促進 (概要) イベントとあわせてパーク＆ライドを促進する施策を実施するなど、駅やバス停から離れた地域に住んでいる方にも公共交通を利用していただき、公共交通利用者の増加を図る。</p> <p><具体的取組> ①宮津線 100 周年記念イベントとあわせて、会場までパーク＆ライドでお越しいただけるようチラシ等でPR 活動を行う。 ②イベントにパーク＆ライドで来ていただいた方にはノベルティを無料配付するなどのインセンティブを付与する。 ③京都丹後鉄道の各駅でパーク＆ライド施策を実施 ・特急料金割引、駐車場料金の割引 など</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>実施主体 WT を中心に沿線自治体と連携して実施</p> | <p>実施時期 (年度)</p> | <table border="1"> <tr> <td>～R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11～</td> </tr> <tr> <td colspan="2">協議 検討</td> <td colspan="4">施策の実施</td> <td colspan="1">継続</td> </tr> </table> | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | 協議 検討 | | 施策の実施 | | | | 継続 |
| ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | | | | | | | | | | |
| 協議 検討 | | 施策の実施 | | | | 継続 | | | | | | | | | | |
| <p>A. 令和 6 年 度実施事業</p> | <p>■公共交通機関の運行状況に係る情報提供の即時性の向上 (概要) 悪天候や事故発生時における、丹鉄をはじめとする公共交通機関の遅延や運休に係る情報を、利用者が駅などへ行かずとも即時に把握し送迎などの対応策をスムーズに選択できるよう情報発信機能を強化することにより、安心して公共交通機関を利用できる環境を整備する。</p> <p>例) SNSを活用した遅延、運休、代替交通手段情報の提供 等</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>実施主体 WT、交通事業者</p> | <p>実施時期 (年度)</p> | <table border="1"> <tr> <td>～R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11～</td> </tr> <tr> <td colspan="5">運行情報提供の即時性の向上</td> <td colspan="2">継続</td> </tr> </table> | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | 運行情報提供の即時性の向上 | | | | | 継続 | |
| ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | | | | | | | | | | |
| 運行情報提供の即時性の向上 | | | | | 継続 | | | | | | | | | | | |

| | |
|------------------------------|--|
| <p>C. 構想段階 事業</p> | <p>■サイクルトレイン拡充の実証実験 (概要)</p> <p>京都丹後鉄道沿線地域では、目的地までのアクセス交通が課題となっている。地域住民や来訪者が便利に目的地まで移動できるよう、サイクルトレインの運行日数増加や専用車両の拡大について検討する。</p> <p>○地域公共交通再構築調査事業 (補助対象事業)</p> <p>鉄道輸送の高度化に向けた検証：増便、接続改善、ダイヤ変更など</p> <p>(補助率) ※実証実験 補助率 1/2 上限額 50 百万</p> |
|------------------------------|--|

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|----------------------------------|------|------|----|----|----|----------|------|----|---|------|------|--------|-------|----------------------------------|-----|--------|------|----------------|------|------|-----|----------------|-----|------|------|----------------|------|-------|-----|-----|-----|
| 施策 | ②-c. 駅及び駅周辺の快適性・利便性の向上 ＜駅の待合環境、駅施設の改善＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | ① | ③ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 駅の待合環境の改善、利便性向上、にぎわいづくりによる利用促進を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■ 駅周辺の待合環境の整備に関する取組の支援 (概要)</p> <p>京都府駅周辺にぎわいづくり推進事業費補助金制度を活用し、R6～R10の前半5ヵ年で3駅の待合環境等の整備を目指すこととし、市町に整備駅の募集を進める。</p> <p>○ 京都府駅周辺にぎわいづくり推進事業費補助金 (補助対象駅)</p> <p>1日当たり乗降客数が1,000人未満の駅（子育て支援は2,000人未満） 宮津線、宮福線の両線が対象</p> <p>(補助対象事業)</p> <p>① 待合環境を改善する事業（トイレ改良含む） ② 交通案内、観光案内等の情報の提供・発信を強化する事業 ③ 地域の拠点化を推進する事業 ④ 交通結節機能を強化する事業（駐輪場、駐車場、バス停整備含む） ⑤ 駅周辺の回遊性を向上させる事業（レンタサイクル、カーシェアリング含む） ⑥ 駅及び駅周辺での賑わいを創出する事業（カフェ、マルシェ整備含む） ⑦ 子育てにやさしい駅づくりを推進する事業 ⑧ その他知事が必要と認める事業</p> <p>(補助金額・補助率)</p> <p>補助率 1/2 補助金額 10 百万円以内</p> <p>(その他)</p> <p>社会資本整備総合交付金の活用が可能</p> <p>○ 整備計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>駅</th> <th>整備内容</th> <th>実施主体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28～29</td> <td>丹後由良駅</td> <td>観光案内板、喫茶・待合スペース、レンタサイクル、無料 Wi-Fi</td> <td>宮津市</td> </tr> <tr> <td>H28～29</td> <td>久美浜駅</td> <td>カフェ、トイレ、駅前広場改良</td> <td>京丹後市</td> </tr> <tr> <td>R4～6</td> <td>宮津駅</td> <td>駅舎改良（授乳スペース 等）</td> <td>宮津市</td> </tr> <tr> <td>R6～7</td> <td>与謝野駅</td> <td>駅舎改良（待合室等）、駅周辺</td> <td>与謝野町</td> </tr> <tr> <td>R8～10</td> <td>検討中</td> <td>検討中</td> <td>検討中</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | | | | 年度 | 駅 | 整備内容 | 実施主体 | H28～29 | 丹後由良駅 | 観光案内板、喫茶・待合スペース、レンタサイクル、無料 Wi-Fi | 宮津市 | H28～29 | 久美浜駅 | カフェ、トイレ、駅前広場改良 | 京丹後市 | R4～6 | 宮津駅 | 駅舎改良（授乳スペース 等） | 宮津市 | R6～7 | 与謝野駅 | 駅舎改良（待合室等）、駅周辺 | 与謝野町 | R8～10 | 検討中 | 検討中 | 検討中 |
| | 年度 | 駅 | 整備内容 | 実施主体 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H28～29 | 丹後由良駅 | 観光案内板、喫茶・待合スペース、レンタサイクル、無料 Wi-Fi | 宮津市 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H28～29 | 久美浜駅 | カフェ、トイレ、駅前広場改良 | 京丹後市 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| R4～6 | 宮津駅 | 駅舎改良（授乳スペース 等） | 宮津市 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| R6～7 | 与謝野駅 | 駅舎改良（待合室等）、駅周辺 | 与謝野町 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| R8～10 | 検討中 | 検討中 | 検討中 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実施主体 沿線自治体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | |
|--------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ②-d. MaaS などシームレスな公共交通ネットワークの構築 ＜シームレスな交通ネットワークの構築＞ | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | ① ③ | |
| 目的 | シームレスな交通ネットワークを構築し、地域公共交通の利便性を向上させることで利用者の増加を図る。 | | | | | | | |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■地域公共交通の GTFS 化の推進 (概要) 京都丹後鉄道沿線地域では、コミュニティバスやデマンドバスなどの運行により交通空白地における移動手段の確保を進めている。現状、運賃や経路は実施主体の交通事業者や自治体のサイトで確認しなければならないため、GTFS 化を沿線自治体で進め、WEB サイトやアプリでの検索を可能にする。 ＜スケジュール＞ 令和 6 年度から順次、沿線地域での GTFS 化を進める | | | | | | | |
| | 実施主体 沿線自治体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| | | | | | | | | |
| C. 構想段階 事業 | ■地域公共交通に関するポータルサイト、アプリの作成 (概要) 京都丹後鉄道及び計画区域内の全てのバスの時刻表、経路等を掲載したポータルサイトを作成、それらの情報について MaaS アプリ等に掲載する。総合時刻表には、交通機関それぞれの時刻だけでなく、鉄道駅及びバス結節点における乗継情報、タクシー情報、パーク＆ライド情報、区域内の公共施設や集客・観光施設への公共交通を利用した行き方の情報等を掲載する。 ＜財源＞ 地域公共交通再構築調査事業、共創モデル実証運行事業 | | | | | | | |

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | | |
|--------------------|--|------|-----------------|----|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ②-d. MaaS などシームレスな公共交通ネットワークの構築 ＜JR 西日本との連携強化＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ① | ③ |
| 目的 | 京都丹後鉄道と JR の乗り継ぎを容易にし、利用者の利便性を高める。 | | | | | | | | |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■JR 西日本が提供するオンライン予約サービスの丹鉄への拡大検討 (概要) JR 西日本が展開するオンライン予約サービスの e5489 において、丹鉄の特急列車や沿線の公共交通等の予約が可能となるよう検討を進める。 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | WT を中心に JR 西日本と連携して検討 | (年度) | 予約サービス拡充の検討 | | | | | 継続 | |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■京都丹後鉄道への ICOCA の導入検討 (概要) 丹鉄では交通系 IC カードシステムが導入されていないため、交通系 IC カードで乗車した場合は車内の現金精算で対応しており、利便性は低い状況にある。 スムーズな運賃支払いを可能とするため、交通系 IC カードシステムの未整備駅においても利用できるようシステムの導入を検討する。 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | WT を中心に JR 西日本と連携して検討 | (年度) | 交通系 IC カードの導入検討 | | | | | 継続 | |

| 基本方針② 快適性・利便性の向上 | | | | | | | | |
|------------------------------------|---|--------------|-----|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ②-d. MaaS などシームレスな公共交通ネットワークの構築 ＜利便性向上のためのマーケティングの実施＞ | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | ① ③ | |
| 目的 | 地域公共交通の利用者に最適なサービスを提供し、利用者拡大を目的としたマーケティングに取り組む。 | | | | | | | |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | <p>■マーケティングの実施及び活用検討 (概要)</p> <p>沿線地域の居住者や来訪者についてデータを収集し、関係者への情報共有を行う。また、データを踏まえて地域公共交通の更なる利便性向上、利用者拡大に向けた検討を進める。</p> <p>＜具体的取組＞</p> <p>①データ収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客、事業者、住民アンケートを実施しデータを自治体と共有 ・HP や SNS などを活用し、来訪者との接点を増やして顧客情報を収集 <p>②活用検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの分析を踏まえた沿線地域のデジタルマップの活用 ・データの分析を踏まえた地域内のキャッシュレス化、ネット予約の推進 | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| 交通事業者を中心に 観光団体、沿線自治体 と連携して実施 | | | | | | | | |

■基本方針③「沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携」に関する施策

| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | |
|---------------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ③-a. 沿線自治体の立地適正化計画や駅周辺整備計画等の着実な推進 ＜都市計画マスタープランや立地適正化計画の着実な推進＞ | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | ② | |
| 目的 | 都市計画マスタープランや立地適正化計画の着実な推進により駅周辺地域の活性化を図る。 | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■福知山市都市計画マスタープラン</p> <p>＜まちづくりの重点戦略＞</p> <p>①まちなかの賑わいの創出 ②都市機能の集積と新たな価値の創造 ③産学官連携のスマートシティづくり ④災害に強い防災まちづくり ⑤交通ネットワーク、地域拠点整備</p> <p>＜計画期間＞ 令和4年4月（改定）～令和12年度</p> <p>■福知山市立地適正化計画</p> <p>＜方針＞</p> <p>「新時代に繋げる安全で多様性と包摂性のある都市の実現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様で高度な都市機能を有し、都市に住むすべての人々が安心して暮らせるまちづくりを目指す。 ・過度に狭い範囲に都市機能を集約した高密度な都市を構築することや、低密度なまちが広範囲に分布することを防ぎつつ、暮らしやすいゆとりのあるまちづくりを目指す。 <p>＜計画期間＞ 令和4年度～令和12年度</p> | | | | | | | |
| | 実施主体 福知山市 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------|--|---------------------|-----|----|----|----|----|-----|------|
| A. 令和 6 年 度実施事業 | <p>■舞鶴市都市計画マスタープラン</p> <p><まちづくりの基本方針></p> <p>①持続可能なまちづくり ②快適なまちづくり ③活力あふれるまちづくり ④自然と共生するまちづくり ⑤安心・安全なまちづくり</p> <p><計画期間></p> <p>平成 30 年度～令和 10 年度まで</p> <p>■舞鶴市立地適正化計画</p> <p><方針></p> <p>「舞鶴版コンパクトシティの形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利便性が高く都市基盤が整っている鉄道駅周辺の「まちなか」を中心に重点的な都市再生を図ることにより、これからの時代に合った利便性の高い居住環境の確保を効率的に進める。 ・「まちなか」以外の地域においては、地域特性に見合った住まい方や居住密度、土地利用の誘導を図る。 <p><計画期間></p> <p>平成 30 年度～令和 10 年度まで</p> | | | | | | | | |
| | 実施主体 舞鶴市 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | 都市計画マスタープラン・立地適正化計画 | | | | | | | 継続 |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | <p>■宮津市都市計画マスタープラン</p> <p><まちづくりの基本方針></p> <p>共に創る海と文化の交流空間</p> <p>取り組むべき課題とまちづくりの方向性を踏まえた5つの柱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済力が高まるまちづくり ・住みたい、住み続けたいまちづくり ・安全・安心に生活でき、環境にやさしいまちづくり ・健康でいきいきと幸せに暮らせるまちづくり ・ふるさとを大切に学びを深めるまちづくり <p><計画期間></p> <p>令和 3 年 12 月～令和 12 年度 (10 年間)</p> | | | | | | | | |
| | 実施主体 宮津市 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | 宮津市都市計画マスタープラン | | | | | | | 継続 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---------------------|---------|--------|--------|--------|--------|---------|----------|
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■京丹後市都市計画マスタープラン <まちづくりの基本方針> 1. 広域幹線道路や鉄道などの整備効果を活かし、人と経済・文化の交流を促進させる（軸の形成） 2. 職住近接の利便性の高い都市環境を築くとともに、人と水とみどりの共生する環境を実現させる（ゾーンの形成） 3. 広域連携・交流の拠点を整備するとともに、市民生活を支える地域振興 <計画期間> 平成 28 年 7 月～令和 6 年度（10 年間） ※R6 年度または R7 年度に新たな都市計画マスタープランを策定予定 | | | | | | | | |
| | 実施主体 京丹後市 | 実施時期 (年度) | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■豊岡市都市計画マスタープラン <基本方針> (1)地域資源を活かした魅力あるまちづくり (2)安全で豊かな自然に囲まれたまちづくり (3)多様な交通手段を活かしたまちづくり (4)地域のコミュニティを活かしたまちづくり <計画期間> 平成 31 年 3 月～令和 10 年度 | | | | | | | | |
| | 実施主体 豊岡市 | 実施時期 (年度) | | | | | | | R11～ |

| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ③-b. 駅周辺のにぎわいづくりの推進 ＜駅周辺等への都市機能の再配置＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ② | ④ |
| 目的 | 駅周辺等への都市機能の再配置により地域の活性化及び公共交通利用者の増加を図る。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■福知山駅 正面エリアの再開発 (概要) 福知山駅北側の駅正面エリアで空きテナントへの店舗誘致や空きビルを活用したミックステナント事業を実施し、地域の活性化を図る。 ＜具体的取組＞ <ul style="list-style-type: none"> ・福知山駅前商店街の空き店舗を利用した店舗の誘致 ・「銀鈴ビル」を活用した複合施設の整備 | | | | | | | | |
| | 実施主体 福知山市 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| A. 令和6年度実施事業 | ■西舞鶴駅 西口駅前広場整備 (概要) 舞鶴市の玄関口の一つであり、重要な交通結節点である西舞鶴駅の西口広場整備を実施し、バスやタクシーといった公共交通の集約や鉄道との乗り継ぎを改善することで、利便性や快適性の向上を目指す。 ＜整備項目等＞ <ul style="list-style-type: none"> ・駅前ロータリーの整備（バス・タクシーの乗降場所を集約） ・公共交通用シェルター（上屋）の整備 ・駅前広場の利活用 ・京都交通西舞鶴駅前案内所の西駅交流センターへの移転 ＜整備スケジュール＞ R3：基本設計 R4：実施設計 R5～R6：施工、供用開始（予定） | | | | | | | | |
| | 実施主体 舞鶴市 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |

**A. 令和 6 年
度実施事業**

■西舞鶴駅 中央図書館整備

(概要)

「舞鶴市図書館基本計画」の基本方針である、「課題解決型図書館への脱皮」「多様な子どもたちや社会的弱者など、あらゆる市民に対するサービスの展開」「全市域サービス網の構築」に基づく図書館再編を図るため、西舞鶴駅東口に中央図書館を整備する。

<図書館再編にかかる主な取組>

- ・ 人、施設、資料の中央図書館への集約・統合
- ・ 市内 5 地区への分館の配置と機能強化
- ・ 自動車図書館の導入などアウトリーチサービスの検討
- ・ 小中学校図書館の充実支援や連携

<整備スケジュール>

R5～R6：基本設計

R7：実施設計

R8～R9：施工、供用開始（予定）

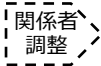
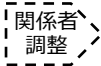
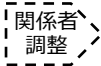
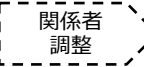

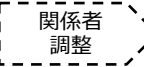

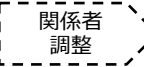

| | | | | | | | | |
|-------------|--------------|------|------|-------|----|----|-----|------|
| 実施主体 舞鶴市 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | 基本設計 | 実施設計 | 施工・供用 | | | | |

| | |
|-----------------------|--|
| <p>C. 構想段階 事業</p> | <p>■ 駅周辺等のにぎわいづくりの検討</p> <p>○ 宮津市 島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化の検討 (概要) 宮津駅近辺に位置する、天橋立を望む眺望に優れアクセスも良い「島崎・浜町ウォーターフロントエリア」の民間資金等活用によるにぎわいづくりを進め、地域経済の活性化を図る。</p> <p>○ 京丹後市 都市拠点への都市機能の集積等の検討 (概要) 国道 312 号と国道 482 号の交差点付近エリアを「都市拠点」として位置づけ、多くの人が集まる拠点として都市機能を集積する。また、公共交通や様々なモビリティが集まる交通結節機能の構築を検討する。</p> <p>○ 豊岡市 大学と連携した市街地形成の検討 (概要) 令和 3 年 4 月に豊岡駅の近辺に開学した芸術文化観光専門職大学と連携し、豊岡駅周辺の活性化及び公共交通の利用促進策を検討する。</p> <p>○ その他にぎわいづくりの検討 (概要) 京都丹後鉄道の駅周辺では、高齢化や事業所の減少が進んでおり、活性化が大きな課題となっている。宮津線 100 周年記念イベントの活用や商業施設の誘致など、沿線自治体、地域住民、民間事業者が連携して駅周辺等のさらなるにぎわいづくりの検討を進める。</p> |
|-----------------------|--|

| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | |
|---------------------------|--|---------|-----|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ③-c. 「海の京都」づくりなど地域の観光戦略との連携 ＜観光地の魅力向上＞ | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | ④ | |
| 目的 | 観光団体と連携した沿線地域の観光まちづくりの推進により、観光拠点の魅力を向上することで地域内外の交流人口拡大を図る。 | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■観光地域づくり</p> <p>(概要)</p> <p>沿線には、天橋立、夕日ヶ浦やコウノトリの郷公園など豊かな自然、元伊勢神社やちりめん街道のような歴史・伝統的資源や景観などバラエティに富んだ観光資源が存在する。沿線地域においてハード面、ソフト面の環境整備を実施し、観光地域づくりを推進する。</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発信力、集客力のある戦略拠点の形成 ・観光地の景観統一の推進 ・世界的認証の取得推進による観光地域のレベル向上 など | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| 観光団体、沿線自治体 | (年度) | 観光地域づくり | | | | | | 継続 |

| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|--------------|-----------|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ③-c. 「海の京都」づくりなど地域の観光戦略との連携 ＜鉄道駅から目的地への交通の整備＞ | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | ② | |
| 目的 | 鉄道駅から目的地までの交通を整備することで公共交通利用者の増加を図る。 | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■観光案内機能の強化 (概要) 観光客の更なる誘客や円滑な移動の確保等に向け、沿線地域内のデジタルマップを活用した観光案内の実施や観光案内所における案内機能のワンストップ化を実施する。 (概要) ・計画区域内 | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| 観光団体を中心に沿線自治体、交通事業者、沿線事業者と連携して実施 | | 協議調整 | 観光案内機能の強化 | | | | | 継続 |



| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|--|-----|----|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ③-c. 「海の京都」づくりなど地域の観光戦略との連携 ＜JR 西日本と連携した広域的な新たな観光客の開拓＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | ④ | | | | | | |
| 目的 | JR西日本と連携し、広域的な新たな観光客の開拓を図る。 | | | | | | | | |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | <p>■JR 観光列車「はなあかり」の運行とあわせなおもてなし (概要)</p> <p>JR 観光列車「はなあかり」の敦賀駅～城崎温泉駅運行に伴い、鉄道事業者、沿線自治体、沿線住民が連携し、観光地の魅力向上や PR を行い、丹鉄沿線地域のファン獲得を目指す。</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車内や停車駅でのおもてなし（プレゼント、地元産品物販や PR 等） ・停車駅での地域マスコットのおもてなし等のイベントの実施 ・沿線紹介の車内放送の制作 <p>＜財源等＞</p> <p>①財 源：京都丹後鉄道利用促進協議会予算</p> <p>②スケジュール：R6.1～ 関係者との調整</p> <p style="text-align: center;">R6.10 運行開始・運行日におもてなし実施</p> | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| 利促協（沿線自治体）を中心に WT、JR 西日本と連携して実施 | （年度） | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">関係者調整</div> <div style="margin: 0 5px;">→</div> <div style="background-color: #90EE90; padding: 5px; border-radius: 10px;">おもてなし</div> </div> | | | | | | | |
| A. 令和 6 年 度実施事業 | <p>■サンガ観戦者への利用促進 (概要)</p> <p>亀岡スタジアムでの観戦者に対し、域外から丹鉄沿線への誘客に繋げるとともに、サンガファンの沿線住民への利用促進を行う。</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画乗車券と観戦チケットのセット販売 ・参加記念グッズの配布 ・ラッピング列車・ヘッドマーク付き列車等の運行 <p>＜財源等＞</p> <p>①財 源：京都府予算及び国補助金を活用</p> <p>②スケジュール：6 年度に関係者と調整、実施</p> | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| WT を中心に JR 西日本、沿線自治体と連携して実施 | （年度） | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">関係者調整</div> <div style="margin: 0 5px;">→</div> <div style="background-color: #90EE90; padding: 5px; border-radius: 10px;">実施</div> </div> | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------------------------|---------------------|-----|----|----|-----|------|-----|------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>A. 令和 6 年 度実施事業</p> | <p>■JR 特急列車「はなあかり」の成果を踏まえた継続運行の協議 (概要)</p> <p>JR 特急列車「はなあかり」は、敦賀駅から小浜線や京都丹後鉄道を通り、兵庫県の城崎温泉駅まで運行する。季節ごとに線区を変えて運行することを予定しており、敦賀-城崎間の走行継続に向けた協議を進める。</p> <p><スケジュール> R6 年度～協議開始</p> <table border="1" data-bbox="384 577 1393 705"> <tr> <td data-bbox="384 577 683 705"> 実施主体 WT、JR 西日本で調整 </td> <td data-bbox="683 577 842 705"> 実施時期 (年度) </td> <td data-bbox="842 577 938 622">～R5</td> <td data-bbox="938 577 1010 622">R6</td> <td data-bbox="1010 577 1082 622">R7</td> <td data-bbox="1082 577 1153 622">R8</td> <td data-bbox="1153 577 1225 622">R9</td> <td data-bbox="1225 577 1297 622">R10</td> <td data-bbox="1297 577 1393 622">R11～</td> </tr> <tr> <td colspan="9" data-bbox="842 622 1393 705" style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> | 実施主体 WT、JR 西日本で調整 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |  | | | | | | | | |
| 実施主体 WT、JR 西日本で調整 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | | | | | | | | | | | |
|  | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>B. 令和 7 年 度に向けた 調整事業</p> | <p>■JR 西日本と連携した企画旅行 (概要)</p> <p>天橋立を目的地として設定するなど、JR 西日本と連携した企画旅行を実施し、観光客の誘客を図る。</p> <p><具体的取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・天橋立を目的地とした企画旅行（さいころ切符など）、停車駅でのおもてなし（プレゼントや地元製品の PR 等） <p><スケジュール> R6 年度に関係者と調整、R7 年度からの実施を目指す。</p> <table border="1" data-bbox="384 1294 1393 1422"> <tr> <td data-bbox="384 1294 683 1422"> 実施主体 WT、JR 西日本で調整 </td> <td data-bbox="683 1294 842 1422"> 実施時期 (年度) </td> <td data-bbox="842 1294 938 1339">～R5</td> <td data-bbox="938 1294 1010 1339">R6</td> <td data-bbox="1010 1294 1082 1339">R7</td> <td data-bbox="1082 1294 1153 1339">R8</td> <td data-bbox="1153 1294 1225 1339">R9</td> <td data-bbox="1225 1294 1297 1339">R10</td> <td data-bbox="1297 1294 1393 1339">R11～</td> </tr> <tr> <td colspan="9" data-bbox="842 1339 1393 1422" style="text-align: center;">   </td> </tr> </table> | 実施主体 WT、JR 西日本で調整 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |   | | | | | | | | |
| 実施主体 WT、JR 西日本で調整 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | | | | | | | | | | | |
|   | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>C. 構想段階 事業</p> | <p>■JR 西日本と連携した広域的な集客取組 <取組例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丹後くろまつ号」・「特急列車 (KTR8500 系)」の小浜線乗り入れ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|---------|----|----|----|----|----------|------|--|
| 施策 | ③-d. インバウンド対応の強化 ＜外国人旅行者向けプロモーションの強化＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | | |
| | | | | | | | | ② | | |
| 目的 | 外国人旅行者向けプロモーションの強化を図る。 | | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■インバウンドを対象とした丹鉄及び沿線地域のプロモーションの実施 (概要) 訪日外国人を更に誘客し、地域内や地域間の観光・交流促進を図るために、インバウンドを対象とした鉄道・旅行イベントの展開や、海外での丹鉄及び沿線地域のプロモーションを実施する。 ＜スケジュール＞ R6年度より調整、取組 | | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | |
| WT、観光団体 | | (年度) | 調整・取組実施 | | | | | | 継続 | |
| C. 構想段階事業 | ■JR西日本と連携したJRウエストレールパスの共同プロモーション (概要) JR西日本と連携し、JR WEST RAIL PASSの海外での共同プロモーションや、パスを活用した商品開発を行う。 | | | | | | | | | |

























| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | |
|---------------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----------|-----|
| 施策 | ③-d. インバウンド対応の強化 ＜駅施設や車両等のインバウンド対応の推進＞ | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | ② | |
| 目的 | 駅施設や車両のインバウンド対応を推進し、外国人観光客の利便性向上を図る。 | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■オーバーツーリズム未然防止対策の実施 (概要) 沿線地域における観光需要はコロナ禍から回復を見せており、多くの観光地が賑わいを取り戻している一方、観光客が集中する一部の地域や時間帯等によっては、過度の混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度低下への懸念が生じている。このようなオーバーツーリズムに対して未然防止対策を実施する。 ＜具体的取組＞ <ul style="list-style-type: none"> ・混雑や予測される観光地域におけるパーク&ライドの実施 ・駅から観光地域、観光地域間の交通整備による観光客の分散 ・手荷物預かりサービスの実施 など ・観光地域内の交通整理 | | | | | | | |
| | 実施主体 WT、観光団体、交通事業者 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
| | | 調整・取組実施 | | | | | → 継続 | |

| 基本方針③ 沿線地域のまちづくりや観光戦略との連携 | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ③-d. インバウンド対応の強化 ＜クルーズ船との連携＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ④ | |
| 目的 | 京都舞鶴港への大型クルーズ船寄港に対応した沿線地域への周遊促進により丹鉄及び沿線地域の活性化につなげる。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■クルーズ船乗客向けの案内・対応の強化</p> <p>(概要)</p> <p>舞鶴港に寄港するクルーズ船乗客を対象に、おもてなしの強化やにぎわい創出に取り組む。</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとオアシスエリアを活かした賑わいの創出 舞鶴市におけるみなとオアシス登録を契機として、東西の「みなと」と「まち」の特色を活かしながら、「みなと」と「まち」を繋ぐ一体的なイベントなどを開催することで、地域住民の交流や観光振興を通じた地域の活性化と賑わいの創出を図る。 ・観光案内機能の強化 外国人観光客への対応も含めた観光案内サービスの充実や、土産物販売機能を持つ立ち寄りスポット「まいづる観光ステーション」をはじめとする観光案内所の機能強化を図り、多様なニーズに対応したおもてなしを目指す。 ・訪日外国人観光客（インバウンド）を含めた来訪者の利便性向上 来訪者の市内周遊を促すため、案内サインの充実、来訪者ニーズにあった観光MaaSと電動モビリティの導入促進を図る。 ・おもてなしの心を醸成する人材の育成と活動への支援 観光客への「おもてなしの心」をまち全体に広げるため、観光ナビゲーターや観光事業者等の連携強化及び人材育成を図るとともに、観光ガイドボランティア団体や、市民を対象としたおもてなしの心を醸成する講座等を実施する。 <p>＜スケジュール＞</p> <p>令和5年度（2023年度）～令和8年度（2026年度） ※第7次舞鶴市総合計画後期実行計画の計画期間に準じる</p> | | | | | | | | |
| | 実施主体 舞鶴市 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | | | | 実施 | | | 継続 | | |

| | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----|-----|------|--|
| B. 令和 7 年 度に向けた 調整事業 | ■クルーズ船乗客向けの新たなインバウンドコンテンツの検討 (概要) クルーズ船による来訪者を対象に公共交通を使って沿線地域の周遊を促進 するようなツアーを検討する。 <取組例> ・外国人観光客タンゴエリア周遊コースの造成 など <スケジュール> R6：インバウンドコンテンツの検討 R7～：取組実施 | | | | | | | | | |
| | 実施主体 観光団体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |  |
| B. 令和 7 年 度に向けた 調整事業 | ■クルーズ船乗客向けの団体臨時列車運行や企画乗車券の販売 (概要) クルーズ船による来訪者を対象に公共交通を使って移動してもらえよう な企画乗車券の販売や団体臨時列車の運行による利用促進に取り組む。 <取組例> ・西舞鶴⇄天橋立の記念グッズ付企画乗車券の販売 ・団体臨時列車の運行 <スケジュール> 舞鶴市・海の京都 DMO 等と連携し令和 7 年度より実施 | | | | | | | | | |
| | 実施主体 WT | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |  |


■基本方針④「沿線住民など多様な主体との連携」に関する施策

| 基本方針④ 沿線住民など多様な主体との連携 | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------------|------|--------------|----|----|---------------|-----|------|
| 施策 | ④-a. ターゲットを明確にした利用促進の取組の実施 ＜通学利用者等をターゲットとした利用促進＞ | | | | | | 関連する基本方針 ② | | |
| 目的 | 沿線の中学生・高校生を対象に利用促進施策を実施し、通学時の鉄道を含む公共交通の利用促進を図る。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■中学校での交通教室の開催 (概要)</p> <p>沿線地域の中学生を対象に、公共交通をテーマとした総合学習や社会見学等を年1回程度を目標に企画・実施し、公共交通を身近に感じていただくとともに、公共交通利用の意識付けを行う。</p> <p>＜スケジュール等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度中に協議、沿線2校（仮）実施 ・令和7年度以降は、実績を踏まえて拡充検討 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | 沿線自治体・WTを中心に交通事業者、沿線学校と調整 | | 協議調整 | 沿線2校で実施・拡充検討 | | | | 継続 | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■丹鉄団体乗車券学生割引の沿線教育機関へのPR (概要)</p> <p>年度当初に、各沿線教育機関へ丹鉄の団体乗車券学生割引のPRを行い、クラブや課外活動での利用促進を図る。</p> <p>＜団体乗車券学生割引学＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生：8名以上30% 51名以上40% ・その他学生：8名以上20% 51名以上30% | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| | 利促協を中心に沿線自治体、沿線学校と調整 | | | 実施 | | | | 継続 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|-----|----|-----|---|----|-----|------|--|--|---|--|--|--|---|
| <p>A. 令和 6 年度実施事業</p> | <p>■中・高校生への乗車マナーの啓発 (概要) 丹鉄で通学する中学生・高校生を対象に、座席への荷物置きの自粛や整列乗車などの乗車マナー向上が丹鉄の利用促進につながることを理解を深めるため、学校の協力も得てマナー啓発の取組として、各駅や車内への啓発ポスター掲出、駅や車内での啓発放送等を実施する。</p> <p><スケジュール> ・令和6年度中に協議、沿線各校にて啓発PRチラシの配布等を実施</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>実施主体 WT</p> | <p>実施時期 (年度)</p> | <table border="1"> <tr> <td>~R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11~</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">  </td> <td style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ |  | | | | | |  |
| ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ | | | | | | | | | | |
|  | | | | | |  | | | | | | | | | | |
| <p>B. 令和 7 年度に向けた調整事業</p> | <p>■中学生向け夏休み優待パスの発行 (概要) 中学生に対し、丹鉄及び沿線の公共交通を割引価格で乗れるチケットを配布し、公共交通利用の意識づけを行う。</p> <p><スケジュール等> ・令和6年度に関係者と調整、令和7年度から実施 ・令和7年度以降は、実績を踏まえて拡充検討</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>実施主体 WT・沿線自治体を中心に交通事業者、沿線学校と調整</p> | <p>実施時期 (年度)</p> | <table border="1"> <tr> <td>~R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11~</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">  </td> <td colspan="4" style="text-align: center;">  </td> <td style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ |  | |  | | | |  |
| ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ | | | | | | | | | | |
|  | |  | | | |  | | | | | | | | | | |
| <p>B. 令和 7 年度に向けた調整事業</p> | <p>■高校入学説明会・オープンスクール等とタイミングを合わせたモビリティ・マネジメント (概要) 高校入学行事等のタイミングに合わせ、通学用時刻表の頒布や説明会を開催し、通学時の公共交通利用を促す。</p> <p><スケジュール等> ・令和6年度に学校等と調整、令和7年度に実施 ・令和7年度以降は、実績を踏まえて拡充検討</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>実施主体 WT・沿線自治体を中心に、交通事業者、沿線学校と調整</p> | <p>実施時期 (年度)</p> | <table border="1"> <tr> <td>~R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11~</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">  </td> <td colspan="4" style="text-align: center;">  </td> <td style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ |  | |  | | | |  |
| ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ | | | | | | | | | | |
|  | |  | | | |  | | | | | | | | | | |

| 基本方針④ 沿線住民など多様な主体との連携 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|--------------|-----|----|----|----|----|----------|------|--|
| 施策 | ④-a. ターゲットを明確にした利用促進の取組の実施 ＜事業所・行政職員をターゲットとした利用促進＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | | |
| | | | | | | | | ② | | |
| 目的 | 事業所社員及び自治体職員に対して利用促進の取組を実施し、通勤時や出張時の利用を喚起する。 | | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■行政職員の公共交通利用の推進 (概要) 公共交通の利用を推進していく立場である自治体職員に対して通勤時及び休日の公共交通利用のメリットを伝え、公共交通への自発的な行動変容を促す取組を実施する。また、各自治体において出張時は公共交通の利用を徹底する。 ＜具体的取組＞ <ul style="list-style-type: none"> ・職員対象のモビリティ・マネジメントを拡充し、沿線自治体で一体となり実施 ・各自治体において出張時には公共交通利用を徹底するための具体案を検討し、実施 | | | | | | | | | |
| | 実施主体 沿線自治体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | モビリティ・マネジメントの実施 出張時の公共交通利用の徹底 |
| A. 令和6年度実施事業 | ■ダイヤに合わせた会議時刻設定、時差出勤の呼びかけを実施 (概要) 沿線に位置する企業に対し、公共交通を利用して通勤・出張できるよう、ダイヤに合わせた会議時刻の設定や出勤、退勤時刻の設定を呼びかける。 ＜取組例＞ 年1回、各自治体及び協力企業に対して公共交通の利用を促すチラシ(時刻表、マップ等)を配布し、WEB公開する。 ＜スケジュール＞ R6：自治体において取組実施、配布企業選定 R7：広報物を沿線自治体及び企業等に頒布 | | | | | | | | | |
| | 実施主体 沿線自治体を中心に WT、交通事業者と連携 して実施 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | 自治体呼びかけ、企業選定(R6～) 自治体・企業へのチラシ配布 (R7～) |

| 基本方針④ 沿線住民など多様な主体との連携 | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|---|----|----|----|----|-----|----------|--|
| 施策 | ④-a. ターゲットを明確にした利用促進の取組の実施 ＜運転免許証返納者など高齢者をターゲットとした利用促進＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ② | |
| 目的 | 運転免許証返納者など的高齢者を対象とした利用促進の取組を実施し、日常の公共交通利用を喚起する。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■高齢者を対象とした公共交通利用の支援制度の継続及び拡充検討 (概要)</p> <p>高齢者が、安心して買物や通院等で移動することができるように、現行の支援制度等を継続するとともに、拡充等の検討を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>＜福知山市で実施中の支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス、丹鉄、タクシーで利用可能な乗車券6,000円分を交付(運転免許のない75歳以上) (直近3年以内に運転免許を自主返納した人には12,000円分) ・運転経歴証明書の提示による協賛事業者から特典の提供 <p>＜舞鶴市で実施中の支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス、丹鉄で利用可能なクーポン券の販売(75歳以上) ・市内移動のタクシーで利用可能なクーポン券の販売(75歳以上) <p>＜宮津市で実施中の支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹鉄片道200円レールの実施(65歳以上) ・栗田地区内で200円タクシーの実施 ・運転免許証自主返納者を対象とした丹鉄6ヶ月間無料パスの配付 <p>＜京丹後市で実施中の支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹鉄片道200円レールの実施(65歳以上) ・上限200円バスの実施(市内の丹海バス) ・運転免許証自主返納者を対象とした丹鉄6ヶ月間無料パスの配付 <p>＜伊根町で実施中の支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹鉄片道200円レールの実施(65歳以上) ・運転免許証自主返納者を対象とした丹鉄6ヶ月間無料パスの配付 ・高齢者向けの買い物支援車両を運行 <p>＜与謝野町で実施中の支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹鉄片道200円レールの実施(65歳以上) ・運転免許証自主返納者を対象とした丹鉄6ヶ月間無料パスの配付 <p>＜豊岡市で実施中の支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許証自主返納者を対象とした路線バス及び市営バス等の大人運賃半額制度の実施 </div> | | | | | | | | |
| 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | |
| 沿線自治体 | (年度) | <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;"> 高齢者を対象とした支援事業の 継続・拡充検討 </div> | | | | | | 継続 | |

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|-----------------------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-------------|
| <p>A. 令和 6 年 度実施事業</p> | <p>■高齢者を対象としたモビリティ・マネジメントの継続及び拡充検討 (概要)</p> <p>高齢者を対象としたイベントの中で、公共交通の乗り方講座などを実施し、公共交通の利用促進を図る。市町が単独で実施している取組が多く、バスに関するモビリティ・マネジメントが中心となっているが、鉄道も含めて広域で連携した取組を検討する。</p> <p><具体的取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象としたモビリティ・マネジメントの継続 ・公共交通による通院と健康セミナーを一体とした通院体験会の開催 等 | | | | | | | | |
| | <p>実施主体 沿線自治体、WT、 交通事業者</p> | <p>実施時期 (年度)</p> | <p>～R5</p> | <p>R6</p> | <p>R7</p> | <p>R8</p> | <p>R9</p> | <p>R10</p> | <p>R11～</p> |
| | | |  | | | | | | |
| <p>C. 構想段階 事業</p> | <p>■高齢者を対象とした定期券の発行 (概要)</p> <p>高齢者が自家用車に頼らなくても、公共交通を利用して主な商業施設や医療機関等を往復できるようにするために、沿線の公共交通一体で利用可能なおでかけ定期券の発行について検討を進める。</p> | | | | | | | | |

| 基本方針④ 沿線住民など多様な主体との連携 | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|------|--------------|----|----|----|----------|-----|------|
| 施策 | ④-a. ターゲットを明確にした利用促進の取組の実施 ＜子どもをターゲットとした利用促進＞ | | | | | | 関連する基本方針 | | |
| | | | | | | | ② | | |
| 目的 | 沿線の園児及び小学生を対象にモビリティ・マネジメントを実施し、利用のハードルを下げる。 | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■幼稚園児・小学生対象の交通教室の開催 (概要) 沿線地域の幼稚園児・小学校を対象に、公共交通をテーマとした総合学習や社会見学等を年1回程度を目標に企画・実施し、公共交通を身近に感じていただくとともに、公共交通利用の意識付けを行う。 ＜スケジュール等＞ <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度中に取組内容を協議、沿線2校(仮)実施 令和7年度以降は、実績を踏まえて拡充検討 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| WTを中心に交通事業者、沿線自治体及び沿線学校と調整 | (年度) | 協議調整 | 沿線2校で実施・拡充検討 | | | | 継続 | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■たんてつこども新聞の継続・拡充検討 (概要) 丹鉄や地域のトピックスとともに、子ども用お試し乗車券も併せて掲載した新聞を沿線市町小学校等に配布する。多くの方に見ていただけるようにWEBによる配付も検討を進める。 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| 利促協にて内容を調整、実施 | (年度) | 協議調整 | たんてつこども新聞の配付 | | | | 継続 | | |
| A. 令和6年度実施事業 | ■沿線自治体・交通事業者によるモビリティ・マネジメントの継続・拡充 (概要) 公共交通乗り方講座やイベントの実施などこれまでの取組の実施状況を踏まえた上で継続、拡充する。 ＜具体的取組＞ <ul style="list-style-type: none"> お絵描きコンテスト 公共交通フェスティバル 路線バス乗り方教室 丹鉄乗り方教室 きょうとエコサマー など | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| 沿線自治体を中心に交通事業者と調整 | (年度) | 協議調整 | 実施 | | | | 継続 | | |

| | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|--------------|-----|----|----|----|----|-----|------|--|
| A. 令和 6 年 度実施事業 | ■キッズトレインの運行 (概要) おもちゃ列車やハロウィン列車など、子どもたちが鉄道に乗りたいと思えるようなイベント列車を運行し、公共交通利用の意識付けを行う。 <スケジュール> R6 年度:取組内容を協議、実施 | | | | | | | | | |
| | 実施主体 WT を中心に沿線自治体と調整 | 実施時期 (年度) | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ | |
| B. 令和 7 年 度に向けた 調整事業 | ■手作り切符による子ども料金の無料化 (概要) 期間限定で丹鉄の切符を手作りし、持参した子どもは乗車料金を無料にする。子どもの乗車料金を無料にすることで子どもに公共交通の利用を体験していただき、普段は車で出かけているご家族の方にも公共交通利用の意識付けを行う。 <スケジュール> ・令和 6 年度に取組内容を協議、7 年度から実施 | | | | | | | | | |
| | 実施主体 WT を中心に沿線自治体と調整 | 実施時期 (年度) | ~R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11~ | |

| 基本方針④ 沿線住民など多様な主体との連携 | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------------|------|------------|----|----|----|----------|------|
| 施策 | ④-b. 地域と連携した地域主体の取組の推進 ＜地域住民の利用促進＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ② | |
| 目的 | 地域住民に対して利用促進の取組を実施し、公共交通利用を喚起する。 | | | | | | | | |
| A. 令和7年度に向けた調整事業 | <p>■丹鉄月1回乗車運動の展開 (概要)</p> <p>沿線地域で丹鉄月1回乗車運動を展開し、鉄道の利用促進を図る。乗車回数によってグッズを配付するなどインセンティブを付与することでモチベーションを維持できるように仕組みを構築する。</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月丹鉄の乗車日を決めてチラシ、ポスター、広報掲載など沿線住民の利用が維持に不可欠であることをPR ・デジタルスタンプやスタンプカードなどを発行し、回数に応じたインセンティブを付与 <p>＜スケジュール＞</p> <p>R6：制度設計 R7：取組実施</p> | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 (年度) | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| WT、沿線自治体を中心に実施 | | | 制度設計 | 月1回乗車運動の実施 | | | | 継続 | |

| 基本方針④ 沿線住民など多様な主体との連携 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------------|-----|----|----|----|----|----------|------|--|
| 施策 | ④ーb. 地域と連携した地域主体の取組の推進 ＜地域住民による集客イベント等の実施＞ | | | | | | | 関連する基本方針 | | |
| | | | | | | | | ② | | |
| 目的 | 宮津線100周年を記念し、地域住民と連携した集客イベントを実施し、鉄道をはじめとする公共交通及び地域の活性化を図る。 | | | | | | | | | |
| A. 令和6年度実施事業 | <p>■宮津線100周年イベントの実施</p> <p>(概要)</p> <p>鉄道事業者、沿線自治体、沿線住民が連携し、宮津線沿線で年間を通じて様々なイベントを展開することで、地域住民の利用促進、観光客の誘致を図り、丹鉄及び地域公共交通の利用者増を目指す。</p> <p>※各駅、路線毎に順次記念イベント等を実施</p> <p>＜イベント例＞</p> <p>① ラッピング列車や企画列車の運行 1年間を通じ、様々なラッピング列車や100周年記念企画列車、DMOと連携したツアー列車等の運行を行う。</p> <p>② 記念グッズ、記念乗車券、記念鉄印の販売 100周年記念グッズ、乗車券を販売するとともに、記念鉄印を作成</p> <p>③ 各駅でイベントの実施 1年間を通じ、各駅でマルシェ、グルメツアー、駅周辺魅力発見ツアー、スタンプラリーなどのイベントを開催する。</p> <p>④ ノベルティの作成・配布（京都丹後鉄道利用促進協議会） イベント来場時の丹鉄利用を促すため、イベント開催前に配布を周知した上で、丹鉄で来場した方にノベルティを配布</p> <p>⑤ 駅舎を活用した地域イベント実施の支援（宮津市） 宮津市内の駅舎を活用した地域イベントを周年記念日周辺で同時開催するなどし、地域と連携しながら周遊を促すイベントを実施</p> <p>⑥ 公共交通利用促進イベント実施（舞鶴市） 交通事業者によるPRブースの設置等を通じ、公共交通への関心を高めるイベントを開催</p> <p>⑦ 丹後くろまつ号10周年記念イベント（WT） 観光列車「丹後くろまつ号」の運行10周年を記念するイベントを開催</p> <p>＜執行体制等＞</p> <p>①実施主体：宮津線100周年記念事業実行委員会（仮称）を設置</p> <p>②財 源：利促協予算、京都府予算、市町予算等を活用</p> <p>③スケジュール：R5年度中に委員会を立ち上げ、R6年4月から順次取り組む</p> | | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ | |
| 実行委員会を中心に 取組内容を検討。 | (年度) | 「委員会 設置」 | 実施 | | | | | 「継続」 | | |

| 基本方針④ 沿線住民など多様な主体との連携 | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------|-----|------|-----------------------|----|----|----------|------|
| 施策 | ④-c. 関係人口の拡大 〈丹鉄ファンクラブなど関係人口拡大の取組〉 | | | | | | | 関連する基本方針 | |
| | | | | | | | | ① | ③ |
| 目的 | ファンクラブ等を通じて丹鉄や丹鉄沿線地域の関係人口を拡大し、PRや利用促進を図る。 | | | | | | | | |
| B. 令和7年度に向けた調整事業 | ■丹鉄ファンクラブの創設 (概要) 地域住民や鉄道愛好家等が丹鉄に関わる機会を拡大するため、丹鉄のファンクラブを創設し、会員を増やすための取組の検討を進める。 <執行体制等> ①ファンクラブの運営：WT ②スケジュール：R6年度に会費及び特典、実施窓口や用途等の検討 R7年度にファンクラブの創設、会員増加の取組実施 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| WTを中心に利促協と連携して実施 | | (年度) | | 協議検討 | ファンクラブの創設 広報活動等の実施 | | | 継続 | |
| C. 構想段階事業 | ■クラウドファンディングの活用検討 (概要) 車両更新に伴う旧車両の廃車処分やイベント開催等に際して、クラウドファンディングを活用し、沿線自治体等の負担軽減を図る。内装パーツや車両部品を提供・販売するなど、地域住民や鉄道愛好家等が丹鉄に関わる機会の拡大に向けた検討を進める。 <執行体制等> ①クラウドファンディングの運営：KTR・WT ②スケジュール：R6年度から手法の検討 R7年度以降は過年度の検討状況を踏まえて実施内容を調整 | | | | | | | | |
| | 実施主体 | 実施時期 | ～R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11～ |
| KTR・WTを中心に検討 | | (年度) | | 検討 | 過年度の検討状況を踏まえて実施内容を調整 | | | 継続 | |